

ご用命・お問い合わせ先
アペックス産業株式会社
電話 03-3455-6474
FAX 03-3455-6558
〈詳しいご案内は当社のホームページをご覧ください〉
URL <http://www.apex-sangyo.jp>

ギャラリー

シャボン玉レンズ画像

石崎 幸治

新しい世界 - シャボン玉レンズ画像

写真の技法の一つに多重露光があります。花火の撮影で使うと夜空一杯に花が咲いたみたいに綺麗ですが、昼間の撮影では物が重なって写って、何だか分からない写真になります。私は画面の中央部分は像が重なって写らないように工夫して、円周魚眼と広角の2つのレンズで撮影しました。

人間は、特異な瞬間・現象を人に見せたいという欲求から写真を撮るのでしょうか。私は発想を変えて日常の風景を題材に選んでも見る人が美しい、不思議など何かを想起する写真を創り出したいと思って撮影しました。シャボン玉が浮いているように見えるので「シャボン玉レンズ画像」と名付けました。



港二号橋梁 (横浜)



横浜ランドマーク モニュメント



旧前田侯爵邸



三鷹天文台



三鷹市大沢の里 古民家

略歴 石崎幸治 (いしざきこうじ) 1947年東京生まれ。1971年早稲田大学商学部卒。在学中、写真部に所属し、卒業後フリーカメラマンになる。主に新聞社や出版社の依頼で撮影をする。その後、旅行記を書いたことがきっかけで写真に添えるエッセイも書くようになる。また水彩画と焼き物も45歳のときに始め、公募展で入選している。

公募展 2010年、団地景観フォト&スケッチコンテストカレンダー賞。2013年、第9回千修イラストレーションソトコト賞。2015年、環境フォトコンテスト環境大臣賞と環境フォト大賞。2016年、JMPA WEBフォトコンテスト受賞。2017年、第42回JPS展入賞、第65回ニコールフォトコンテスト受賞。2018年、ファーレ立川アートコンテスト入賞、第71回創造展陶芸部門入選。2020年、第3回サイエンスフォトコンテスト最優秀賞。2021年、JMPAインターネットフォトコンテスト入賞。

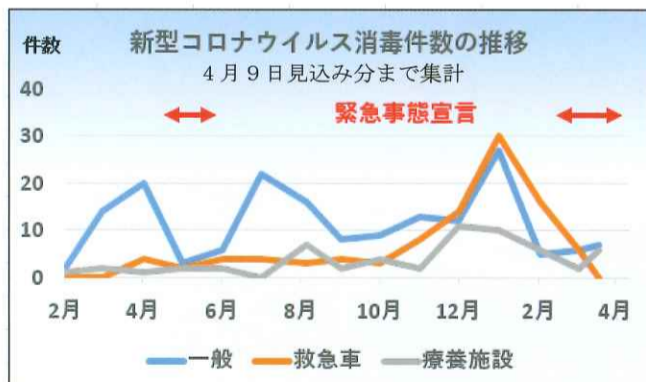


渋谷スクランブル交差点脇のネズミ

おじやま虫 Q&A

ねずみ

Q コロナ禍でネズミが増えているの？
A 新型コロナウイルス感染拡大に伴い緊急事態宣言が発令される中、テレビ朝日「モーニングショー」などが、行動自粛で人出がなくなった夜の東京・渋谷の路上を多数のネズミが走り回っている映像を報道し、ネット上でも衝撃が走りました。
取材する女性記者が、ネズミが走り回っている渋谷で「人はいないんですけど、ネズミだけが縦横無尽に走り回っています、すごい数：うわっ、うわっ、やだ怖い」とリポートする様子を伝えました。
東京大学の清川泰志准教授は、二〇一九年と二〇二〇年の二月、四月の東京都pestコントロール協会のネズミ相談件数を解析したところ、二十区や繁華街のある市で増加していました。
さらに、東京と北米のネズミ駆除業者へのアンケート調査では、東京は「増えた」が六%、北米は五三%との回答でした。
この理由として、東京はクマネズミが優占しており、テイクアウト販売が継続されたため大きな影響は受けなかったのに対して、北米はドブネズミが多いため、移動した先で問題を引き起こしたと推論しています。



図は療養施設、救急車、一般の月ごとの消毒件数の推移である。陽性者数の推移と見事に一致していた。令和三年三月には一般が増加し、リパウンドの兆候が出ている。元の生活に戻れるようにするためにも感染症対策の徹底は重要である。

ヒアリ調査とGPS
二〇一七年に日本で初めて確認されたヒアリは、定着してしまおうと、私たちの暮らしに大きな影響を与えます。ヒアリの侵入、定着を防ぐため、現在、年二回ヒアリ等の生息状況調査を行っています。

二〇二〇年の調査からGPSロガーを使用し、調査ルートやアリの捕まえるための誘引餌を設置した場所を記録することになりました。

GPSロガーは、移動した軌跡を記録し地図上に表示できるため、トレッキングや動物生態調査など様々な用途で利用されています。

GPSロガーを調査に使用することで、どのような場所を調査し、どこに餌を置いたのが正確に記録できたため、餌の回収作業や次の調査の際にスムーズに作業が行なえました。

記録したGPSデータは、PCに取り込んで画像データに変換することで、調査の引継ぎや、目に見える形で顧客に説明することや、問題点などの解析に役立ち、広い土地での作業などにも活用できると思います。

また、最近ではスマートフォン軌跡記録アプリでも簡単に利用でき、旅行や散歩などにも使えます。

私たちが消毒時に防護服を着用するのは作業者の安全の確保とともに「周りに感染を広げない」ためです。ちなみに、これまで感染症予防衛生隊からは一人も感染者を出していませんし、感染を広げることもしません。

「むし籠」の記事にあるように、待機して東京都や東京消防庁からの出動要請に追われていますが、「取引先の安全、安心を確保する」を最優先として取り組んでいます。

むし籠

コロナ消毒について

コロナ禍も一年を過ぎ、振り返れば自社の出勤は一月末の時点で二百三十一件にのぼった。
感染症予防衛生隊として武漢からの帰国者が一時滞在した宿舎、救急車やドクターヘリ、都が借り上げ軽症者を収容する宿泊療養施設、取引先のオフィス、ホテル、店舗など様々な消毒に対応してきた。
防護服着用が義務の上、空調が止めるられ、夏は汗だくでの消毒、熱中症との戦いだった。
救急車の消毒では、雨の中ストレッチャーの消毒をしたこともある。

虫めがね

感染症予防衛生隊

感染症法では、「感染症が発生し蔓延の恐れのある時は、当該施設の管理者が消毒や感染症を媒介するネズミや害虫の駆除を行う」として、市町村の防疫専門職員をなくしてしまいました。背景には人権の尊重と予防に重点を移すことにあります。
とはいえ、「実際に新型コロナウイルスなど感染症が発生したら管理者が対応するのは難しいのではないかと」私たちがお手伝いすべきでないか」という思いから、東京都pestコントロール協会を皮切りに、全国の都道府県pestコントロール協会に「感染症予防衛生隊」を設置して、二十二年にわたり専門家の力をお借りしてマニュアルを作り、訓練を続けてきました。